世界漫遊特集 vo.6 2015年12月号

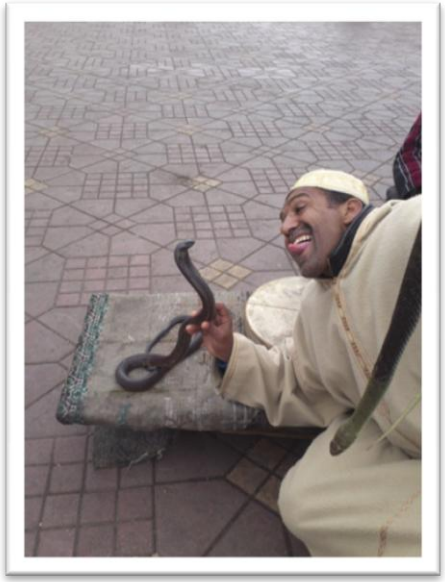
アフリカ「モロッコ」

文：橋詰　英樹

モロッコと聞いてすぐに、どこにある国で、どのような国なのか、いったい何があるのか答えられる日本人は少ないかもしれない。実際行って見るまで、私自身も漠然としたイメージでしか答えられなかった。モロッコ王国はアフリカ大陸北西部に位置しており、ヨーロッパ大陸のスペインからはフェリーで約一時間、ジブラルタル海峡を挟んでわずか十四キロ（泳いで渡るには流れが速い為、危険らしい（笑））。スペイン人やフランス人などにとっては気軽に行ける旅行先、リゾート地の一つである。

この国はある意味アフリカであって、アフリカらしくない国と思える。他のアフリカ諸国とは違う顔を持つ、３つの文化から成り立っている。一つは元来のアフリカの顔。先住民ベルベル人達が作り上げたもの。二つ目はアラビア半島からのアラブ人達により作られた顔。三つ目はかつて植民地化したフランス人により作られた顔。モロッコはアフリカ、アラブ、フランスが混合された国といえる。日本の一・二倍の面積で九つの世界遺産を誇るモロッコは、大まかに言えば国の中央部を横切る四千m級の山を有するアトラス山脈を境に、北部は大都会カサブランカ、旧市街を持つマラケシュ、フェズなど世界遺産や大きな街も多い。一方、南部は世界最大のサハラ砂漠が広がるアフリカらしい景観が魅力。

私のお薦めはモロッコの縮図ともいえる都市・マラケシュ。世界遺産にも指定される旧市街・フナ広場は、夜になると一気に屋台や大道芸人で溢れ出し、エネルギッシュ。ここでぼったくられた蛇使いの顔は忘れられない。



そして南部の砂漠地帯で世界遺産でもあるアイトベンハドゥ。一瞬、火星のような光景とも見紛う。世界最大の砂漠・サハラ砂漠のメルズーガ砂丘でのラクダに乗って見る日の出は感動的。

様々な顔を持ち、見どころ溢れるモロッコは世界中の旅人を惹きつけている。